

オーラルヒストリー取得方法の提案～D&I カフェトークの実践から～

(株) ソーシャル・デザイナーズ・ベース／(株) 地域未来研究所 正会員 ○山田 菊子
(株) 計画技術研究所 正会員 中森 滋子
早稲田大学 フェロー会員 佐々木 葉

1. はじめに

映像配信は個人，組織が容易に利用できる媒体となり，2020 年 2 月ごろからの COVID-19 感染拡大に対応して一層普及した．一方，「語り」に代表される定性データがもたらす情報量の多さにも注目が集まっている．土木学会ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会（以下，D&I 委員会）では，2019 年度末から多様な働き方やキャリアの実例を紹介する 30 分のオンライン配信のインタビュー番組「D&I カフェトーク」（以下，カフェトーク）の制作，ライブ配信，公開を続けている¹⁾．D&I を身近に感じてもらうための気軽に聞けるラジオ番組が目標とする形である．2023 年 3 月末現在までに 39 回実施し，2023 年度も継続することを予定している．本稿ではこれまでの企画の実践を通じて確立した方法を紹介するとともに，カフェトークのオーラルヒストリーとしての意義を考察して，作成される同種の番組の質の向上に寄与することをめざす．なお，第 1 著者が 12 回，第 3 著者が 11 回の聞き手を，第 2 著者がすべての回の事務手続き及び運営に携わっている．

2. 著作権

土木学会でもこれまでに多くのインタビューがなされてきたが，インタビュー実施時に話し手との公開の取り決めを明確にしなかったために，実施したものの公開どころか，その存在も公表されないインタビューがあると聞く．そこで，収録した素材を長期にわたって活用するために，オンラインでのライブ配信，終了後の配信，文字起こしテキストの作成と配信を前提とした手続きを定めた．話し手，聞き手の双方と D&I 委員会が，当日の配信，アーカイブとしての格納と公開を対象とした「著作権および肖像権に関する契約」を締結するものである（表 1）．

表 1 利用許諾の対象

項目	内容
対象物	動画、肖像
利用法	土木学会のウェブサイト、土木学会が契約する SNS や動画配信サイトでの無料の配信
	文章化と要旨の作成
	文章と要旨を土木学会誌や論文集等に掲載すること、無料配信すること

3. 企画の構成

(1)体制：契約書などの書類のやりとりがあること，機材を送付すること（後述）など，個人情報を含むやりとりが発生するため，事務担当者を置く．配信システム（Zoom Webinar）への登壇者や参加者の管理，ライブ及びアーカイブの配信については土木学会が契約するアカウントを使用する．映像の編集にはノウハウと機材が必要なため，土木学会事務局の D&I 委員会担当が実施している．番組には，委員が務める聞き手と，ゲストである話し手が出演するとともに，事務担当者が BGM やスライドの操作を担当する．

(2)機材：話し手，聞き手の機材（カメラ，マイクロフォン）を同種の製品とすることで，録音レベルを調整し，音質を確保する．具体的にはウェブカメラは Logicool C930s Pro HD（広角 1080p フル HD），USB マイクは RØDE NT-USB Mini を使用する．話し手，聞き手には登壇の 2 週間ほど前をめどに送付する．また，事務担当者は BGM を流すために必要なミキサー（YAMAHA AG03）を使用する．

(3)番組：1 回の配信は 3 つのパートからなる（表 2）．オープニングでは開始を宣言し注意事項を伝える．対話で取り上げるトピックは経験上 3 つが適当である．クロージングではアンケート調査への回答依頼，次回の告知を行う．

表 2 番組の構成

No.	パート	内容
1	オープニング	告知スライド 注意事項
2	対話	トピック 3 つ
3	クロージング	アンケート調査の案内、次回の告知
		CPD 登録サイトの紹介

キーワード キャリア形成，インタビュー，オンライン配信，アーカイブ，オーラルヒストリー
連絡先 〒569-1046 大阪府高槻市塚原 6-30-19 (株) ソーシャル・デザイナーズ・ベース kiko.yamada@sd-base.jp

4. 実施プロセス

トークのコンテンツに関わる実施プロセスを示す(図1)。

1). すべてをオンラインで、かつ、聞き手と話し手のみが音声と映像を表示する形式で実施する。

(1) 人選：委員会関係者の知人、同僚などの伝手をたどって話し手を探す。土木分野の多様な働き方、考え方が身近にあることを体現する方として、「多様な生き方」をしようとしている人、そのような人の支援をする人に声をかけている。多くの場合、紹介者が聞き手となる。

(2) 事前打ち合わせ：トークのタイトル、トピックを探すために実施する。おおむね、1.5～2 時間ほどをかける。人選の際に想定したテーマには縛られずに進める。時系列で話を聞き、価値観が大きく変わったエピソードを深掘りし、テーマとすることが多い。ここで定めたテーマで告知を行う(図2)。

(3) リハーサル：機材が話し手の手元に届いた時点で、機材テストを兼ねて1 時間程度のリハーサルを行う。進行表の構成をもとに当日の進行を説明したのち、3 つのトピックを確定する。事前打ち合わせでは話されなかった話題が出ることもしばしばある。リハーサル後、聞き手は進行表にトピックのタイトル、想定する質問、回答のキーワードを記載する。記載の方法は聞き手によるが、臨場感を保ちつつ、自然な対話と予期せぬ語りを引き出すために、読み原稿は作成しないように依頼している。

(4) 本番：進行表を参照しつつ番組を進める。進行表に記載した対話部分についての記述は目安として扱う。聞き手は話し手に合わせて話題を展開するため、本番で初めて話される経験もある。聞き手が安心して話せる環境を確保することと時間の制約を理由に、本番中の参加者からの質問やコメントは参照程度にとどめる。

(5) アンケート：参加者に対し、属性、参加の動機、参加により得たもの、所属組織での D&I の状況など、自由回答を含むウェブアンケートを実施する。アンケートへの回答後に土木学会継続教育(CPD)制度のポイント登録のページへのリンクを提供することとして、回答率の向上をめざす。回答者の属性の一部、参加することで得た気づきや委員会へのメッセージについては、話し手に共有する。

(6) 編集・公開：話し手、聞き手が録画を確認したのち、公開する。39 回のうち削除を求められたのは、聞き手の質問と話し手の答えが噛み合わなかった例などごく僅かである。公開することは著作権契約に明記されている。

(7) 編集・公開：話し手、聞き手が録画を確認したのち、公開する。39 回のうち削除を求められたのは、聞き手の質問と話し手の答えが噛み合わなかった例などごく僅かである。公開することは著作権契約に明記されている。

5. オーラルヒストリーとしてのカフェトークの意義

十分に準備した聞き手と話し手の対話を通じて、話し手の D&I に関する経験と考えや気持ちを映像と音声で記録し、保存するこの取り組みは、まさにオーラルヒストリーの定義²⁾に一致する。話し手は実質的に 3 回のインタビューを受けることになり、テーマに関する自身の気持ちの深掘りにつながっている。短時間の番組であることから参加者は、数多くの話し手の経験、考えや気持ちに触れることができる。さらに音質が確保されていることから文字起こしも容易であり研究の対象となり得る。さらに D&I という機微に触れる可能性のあるテーマについて、話し手が安心して話す環境を提供する方法が確立されつつある。今後は多様な主体による実施を支援したい。

謝辞 本研究は土木学会 JSCE2020 プロジェクトとして、土木学会 D&I 委員会が実施し、科研費 19K1509 の助成によりとりまとめたものである。話し手、聞き手、運営側として参画くださった方々にお礼を申し上げる。

参考文献

- 1) 佐々木葉, 山田菊子: 土木 D&I を下支えする対話としての「D&I カフェトーク」, 土木学会年次学術講演会講演概要集, 77, 京都, 2022.
- 2) Ritchie, D.A.: *Doing Oral History*, Third edition, Oxford University Press, 2014.

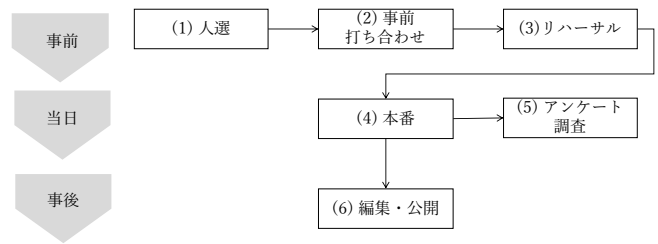


図1 実施プロセス



図2 告知スライド(第39回)